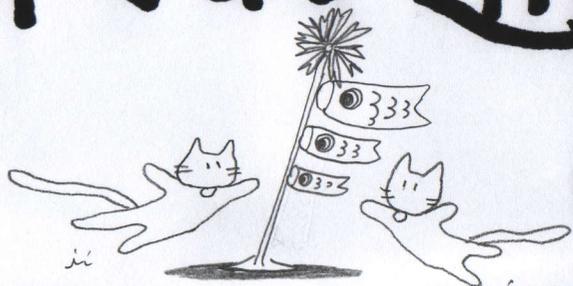


くれあ通信

2010年5月号



Vol.2

発行：株式会社クレア

〒351-0006 埼玉県朝霞市竹町1-11-48-303

TEL / FAX 048-485-8540

http://www.crea-nv.jp/ ← 4月下旬に全面リニューアルした

くれあ通信 5月1日発行

「朝霞紹介」

東武東上線の朝霞駅、5月28日をもちまして、激変致しました。一瞬間違った駅に降りてしまっただと見間がうままでに。パン屋、本屋、花屋の他にお弁当屋や服屋などなど。一度でも朝霞に来たことがある人は特にビックリ出来ると思います。

「朝霞紹介」
朝霞駅、5月28日をもちまして、激変致しました。一瞬間違った駅に降りてしまっただと見間がうままでに。パン屋、本屋、花屋の他にお弁当屋や服屋などなど。一度でも朝霞に来たことがある人は特にビックリ出来ると思います。

「通い始め、その通園途中にある製麺所を紹介したいと思います。黄色の看板が目立つので気になり、ある寒い日、鍋やまうどんに「よう」と思い寄り寄ることに。

「純地粉を使った茶色のうどんは、こーが強く香りもあり、この季節限定のよもぎうどんは格別です。香りとこーを楽しくするには、やはり「ざる」で固いくらいにゆでたものが、歯むきほどによもぎの香りが鼻に抜ける美味でした。名は「林製麺所」。機会を作って是非！」

早いものであつ、というまに1ヶ月が過ぎようとして、いま「当初この「くれあ通信」は季刊のように間隔をあけて発行しようと考えていました。その1ヶ月を振り返る意味で、毎月月末に準備し、翌月初めに発行することにしようと思っております。会社が創業してからというものの、一日が本当に大事に感じられ、生まれてくることを以前よりも「より強く実感します。その表現の一媒体になれる」といいなと思っております。

「映画紹介」

第2回目は、真新しい映画を紹介しようかと考えました。前回が紙面の都合上消化不良だったため、その続きにします。原題「虫の息」が、この邦題はよく出来ていて、確かにこの映画はその視点に立っています。というのも、監督のゴダールは映画なる芸術は何物をも含ませる良いと考えたのです。例えば、ふとした会話の中で唐突に「フォークナー知ってる？」とセバークは言い、ルノワールの「イレーヌ・カン」ダンヴェール嬢が画面を占拠する。そしてモーツァルトが映画音楽の一端を担うのです。

「書籍紹介」

第2回は村上龍氏の「愛を幻想のろシズム」です。狩猟生活を迷う銭原冬二が、アラスカで映画監督をして、日本日本人ゼロと出会う。二人は政治結社「狩猟社」を結成し、狩猟社会の原理と冬二の力とマニアックにより支持を拡大していく。

氏の作品の中でも屈指の傑作だと思えます。政治経済が主題ですが、現代の日本を生き抜くには誰しも抱く不安感、ゆきく感、見事に切り込みます。圧倒的な高揚感とともに、自分も向かおうと欲求が燃え、なげきながら、どうしようアウティクがな気持ちはさせてくれる作品です。

「きわめつけは、殴らるる男」のハンフリー・ボガートで、この映画の中の映画の登場人物に芸術を引用するということを超越したゴダールなりの先人へのオマージュなのです。彼は、この映画を作った時、もう映画で為すべきことは全て為さないと考え、様々なものを詰めこみ、既成を破壊しました。しかし、逆にそれが新しいことなのです。実は我々もこれに習いたいと思っております。既成を既成として受け止め、最大限に尊重しつつ、それに抗い、新しい波を起すこと。それが自分達の姿勢であり精神なのです。